

事前評価個表

整理番号	92
------	----

地域（地区）名	おおいたせいぶ 大分西部地域	事業名	森林環境保全整備事業
計画策定主体	大分県	対象市町村	日田市ほか2町
事業実施期間	H23～H27（5年間）	事業実施主体	大分県、市町、森林組合等

事業の概要・目的	本計画区は大分県の西部に位置し、九州の屋根の一角にあたる、湧蓋山、星生山、福万山、岳減鬼山、釈迦岳、尾ノ岳等、標高1000m～1700mの山系によって周囲を囲まれている1市1郡（2町）を包括する区域面積122,404haの地域である。 このうち民有林森林面積は88,607ha（民有林率72%）となっており、スギ・ヒノキを主体とした人工林面積は62,207ha（人工林率70%）で県平均58%を上回っている。 また、基盤整備の状況は、林道364km（密度4.13m/ha）、作業道919km（密度10.44m/ha）が既に整備されているが、県平均路網密度は林道4.56m/ha、作業道9.13m/haとなっており、林道は県平均より低いが、作業道においては高い状況となっている。 当事業計画区内の森林資源の現状は、近年の木材価格の低迷等から適切な森林施業がなされておらず、8齢級以上の森林が65%と高齢級の森林が増加し偏った齢級配置となっている。 このことから、利用間伐を中心とした森林整備を実施し、地域の活性化と健全な森林資源の維持増進を図る必要がある。 本事業を適正かつ計画的に実施していくことにより、間伐等の森林整備と一体的に丈夫な路網整備が推進され、施業の集約化と低コスト化が進み、間伐等実施林分における搬出率の増加にともなう間伐材の利用促進と、地域の活性化、森林の持つ公益的機能の維持増進が図る。
事業内容・事業費	森林整備：27,900ha 人工造林、下刈り、除伐、間伐、森林作業道等 総事業費：8,408,760千円
費用対効果分析結果	B/C = 5.53
評価結果	必要性：地域材の利用促進と森林の持つ公益的機能を発揮させるためには、適正な森林施業の推進を図ることが重要である。 効率性：投下する費用を上回る効果が見込まれることから、事業の効率性が認められる。 有効性：地域の特性、森林資源の状況並びに自然条件等を総合的に勘案した計画となっており有効である。 本計画は、森林の公益的機能を発揮するために効率的・効果的な森林整備が計画されている。また、効率性、有効性も認められることから、森林環境保全整備事業計画として実施することが適当である。

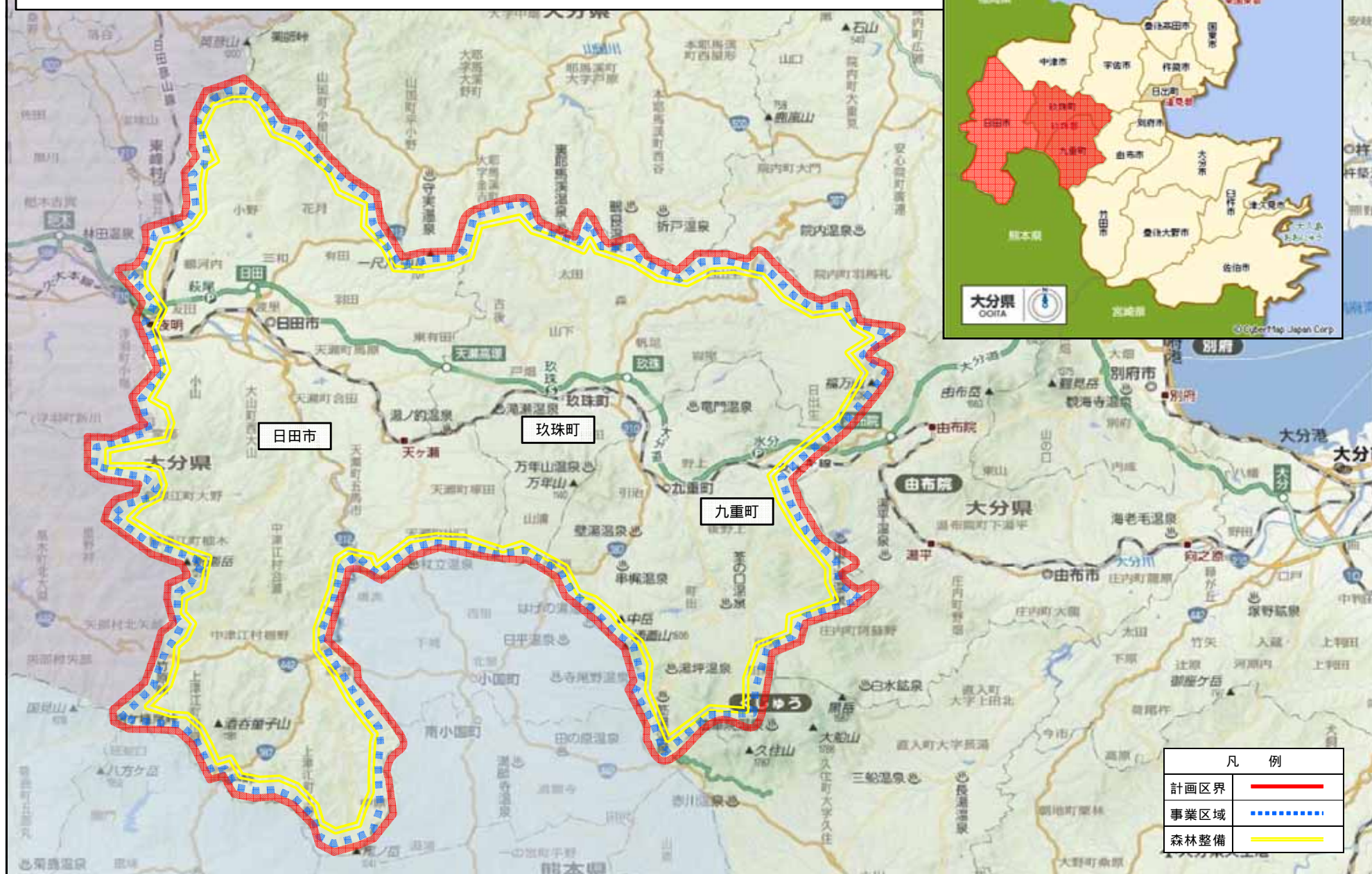
便 益 集 計 表
(森林整備事業)

事業名: 森林環境保全整備事業
地域名: 大分西部

大分県
(単位: 千円)

大 区 分	中 区 分	評価額	備 考
水源かん養便益	洪水防止便益	23,614,743	
	流域貯水便益	7,606,518	
	水質浄化便益	12,985,810	
山地保全便益	土砂流出防止便益	20,138,341	
	土砂崩壊防止便益	7,256,112	
環境保全便益	炭素固定便益	9,002,311	
木材生産便益	木材生産確保・促進便益	13,737,082	
総 便 益 (B)		94,340,917	
総 費 用 (C)		17,032,548	
費用便益比	$B \div C = \frac{94,340,917}{17,032,548} = 5.53$		

森林環境保全整備事業 大分西部地域(大分県) 概要図



事前評価個表

整理番号	93
------	----

地域（地区）名	ごかせがわ 五ヶ瀬川地域	事業名	森林環境保全整備事業
計画策定主体	宮崎県	対象市町村	延岡市ほか3町
事業実施期間	H23～H27（5年間）	事業実施主体	市町、森林組合、林業公社等

事業の概要・目的	五ヶ瀬川地域森林計画区の森林面積は133,717haで、このうち民有林が112,731ha(84%)、人工林面積が61,167ha(54%)となっている。また、人工林の6割をスギが占め、齢級別面積は8齢級をピークに8齢級以上の林分が63%を占めており、スギを主体とした人工林資源は収穫可能な時期を迎えている。 しかしながら、森林資源が充実していく一方で、近年の木材価格の長期低迷や高齢化等による林業労働力の低下から、間伐等の保育管理が不十分な人工林が見受けられるようになり、このまま推移すると、森林の公益的機能の発揮にも支障をきたすことが懸念されることから、長伐期施業による資源循環を促進するため、五ヶ瀬川地域森林環境保全整備計画を作成し、これに基づく森林整備を推進する必要がある。 本計画に基づき、未植栽地の解消、森林に応じた伐採や植栽・保育管理を着実に実施することにより、水源かん養機能等、森林の有する多面的機能の発揮が可能となる。 その他、他産業との連携等に関しては、本計画の地域は農林業が基幹産業であり、その多くは畜産・特用林産及び林業を取り入れた複合経営であることから、農林業の振興において、関係部局と連携を図っている。
事業内容・事業費	森林整備：13,894ha 人工造林、下刈り、除伐、間伐、森林作業道等 総事業費：3,721,099千円
費用対効果分析結果	B/C = 3.36
評価結果	必要性：保育対象林分の状況、森林整備の緊急性から見て必要性が高い 効率性：投下する費用を上回る効果が見込まれることから、事業の効率性が認められる。 有効性：健全な森林の整備によって、森林の有する公益的機能の確保はもとより、将来の優良材の安定的生産に有効である。 本計画では、森林の有する多面的機能を発揮するために必要な森林整備が適切に計画されている。また、効率性、有効性も認められることから、森林環境保全整備事業計画として実施することが適当である。

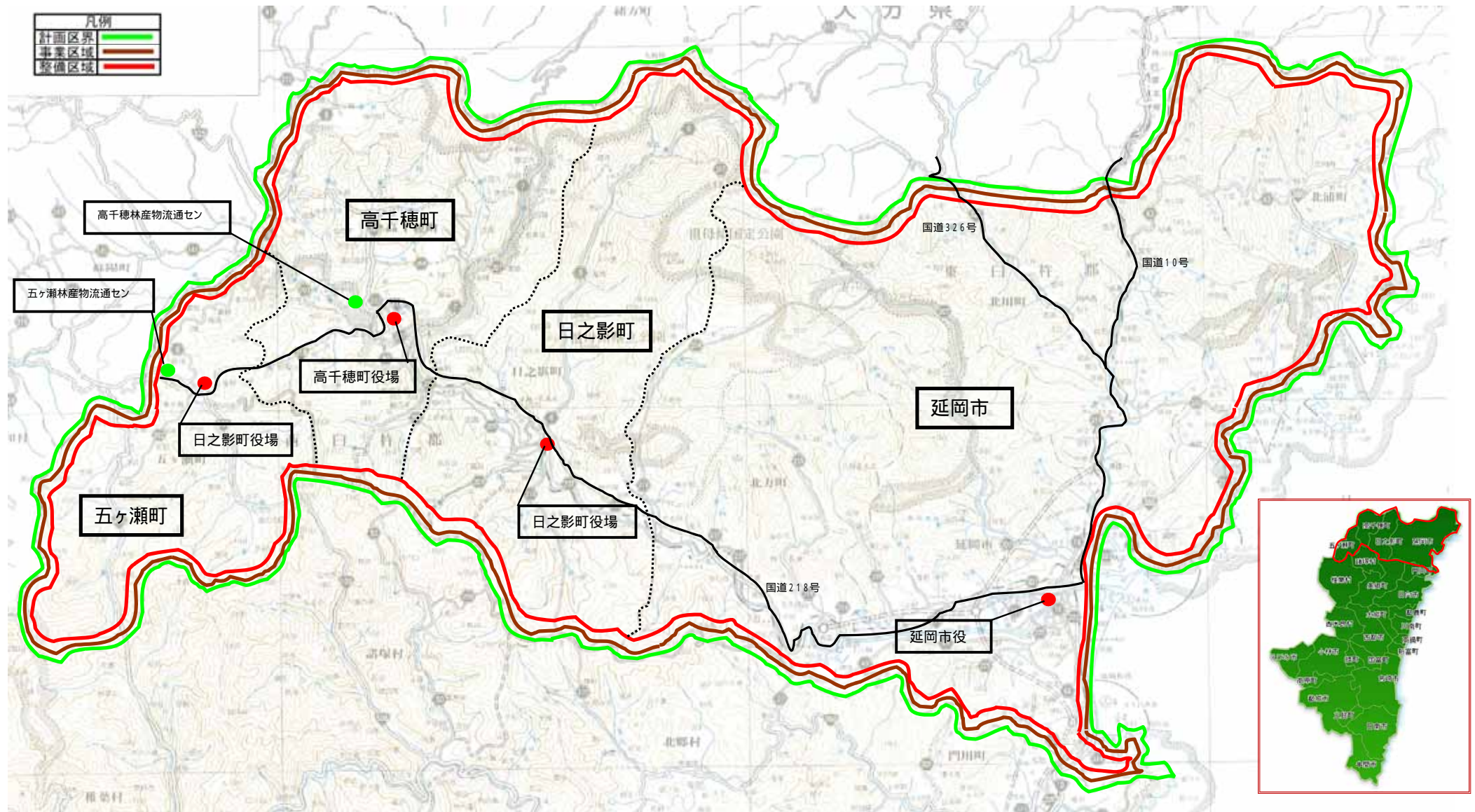
便 益 集 計 表
(森林整備事業)

事業名: 森林環境保全整備事業
地域名: 五ヶ瀬川

宮崎県
(単位: 千円)

大 区 分	中 区 分	評価額	備 考
水源かん養便益	洪水防止便益	5,309,131	
	流域貯水便益	2,651,420	
	水質浄化便益	4,526,493	
山地保全便益	土砂流出防止便益	5,203,391	
	土砂崩壊防止便益	2,663	
環境保全便益	炭素固定便益	2,338,722	
木材生産便益	木材生産確保・促進便益	89,320	
総 便 益 (B)		20,121,140	
総 費 用 (C)		5,985,431	
費用便益比	$B \div C = \frac{20,121,140}{5,985,431} = 3.36$		

森林環境保全整備事業 五ヶ瀬川地域 (宮崎県) 概要図



事前評価個表

整理番号	94
------	----

地域（地区）名	耳川地域	事業名	森林環境保全整備事業
計画策定主体	宮崎県	対象市町村	日向市ほか4町村
事業実施期間	H23～H27（5年間）	事業実施主体	市町村、森林組合、森林所有者等

事業の概要・目的	耳川地域森林計画区の森林面積は146,960haで、このうち民有林が134,833ha(92%)、人工林面積が84,181ha(62%)となっている。また、人工林の7割をスギが占め、齢級別面積は8齢級をピークに7齢級から9齢級以上の林分が51%を占め、特にスギでは標準伐期齢以上の森林が30,655haとスギ人工林面積の56%を占めるなど人工林資源は収穫可能な時期を迎えている。 しかしながら、森林資源が充実していく一方で、近年の木材価格の長期低迷や高齢化等による林業労働力の低下から、間伐等の保育管理が不十分な人工林が見受けられるようになり、このまま推移すると、森林の公益的機能の発揮にも支障をきたすことが懸念されることから、長伐期施業による資源循環を促進するため、耳川地域森林環境保全整備計画を作成し、これに基づく森林整備を推進する必要がある。 本計画に基づき、未植栽地の解消、森林に応じた伐採や植栽・保育管理を着実に実施することにより、水源かん養機能等、森林の有する多面的機能の発揮が可能となる。 他産業との連携等に関しては、本計画の地域は農林業が基幹産業であり、その多くは畜産・特用林産及び林業を取り入れた複合経営であることから、農林業の振興等において関係部局と連携を図っている。
事業内容・事業費	森林整備：31,102ha 人工造林、下刈り、除伐、間伐、森林作業道等 路網整備：3,250m 林業専用道開設 総事業費：7,899,670千円
費用対効果分析結果	B/C ＝ 3.33
評価結果	必要性：保育対象林分の状況、森林整備の緊急性から見て必要性が高い 効率性：投下する費用を上回る効果が見込まれることから、事業の効率性が認められる。 有効性：健全な森林の整備によって、森林の有する公益的機能の確保はもとより、将来の優良材の安定的生産に有効である。 本計画では、森林の有する多面的機能を発揮するために必要な森林整備が適切に計画されている。また、効率性、有効性も認められることから、森林環境保全整備事業計画として実施することが適当である。

便 益 集 計 表

(森林整備事業)

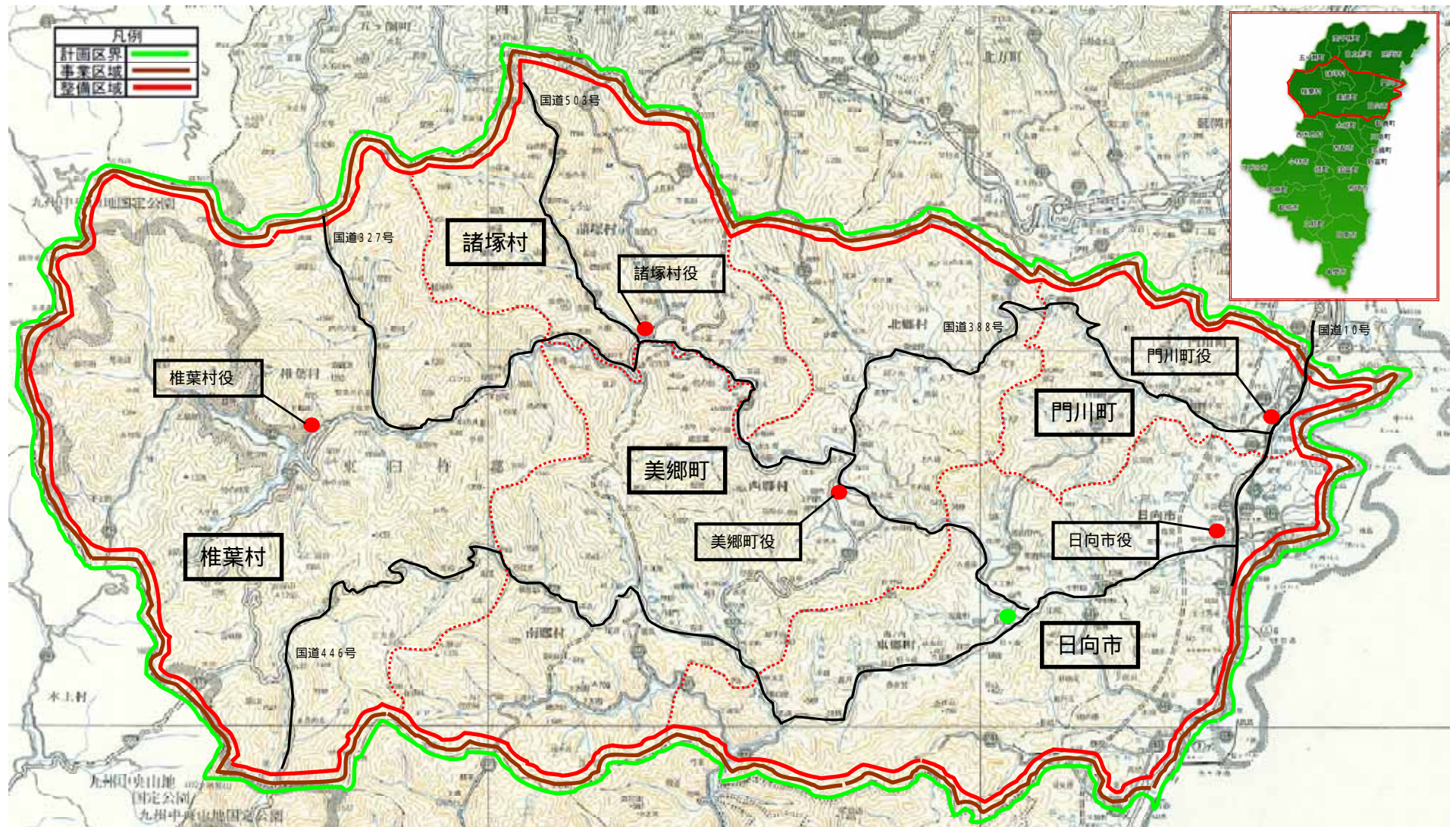
事業名: 森林環境保全整備事業

地域名: 耳川

宮崎県
(単位: 千円)

大 区 分	中 区 分	評価額	備 考
水源かん養便益	洪水防止便益	11,916,459	
	流域貯水便益	6,637,060	
	水質浄化便益	11,330,760	
山地保全便益	土砂流出防止便益	11,454,567	
	土砂崩壊防止便益	7,986	
環境保全便益	炭素固定便益	5,022,806	
木材生産便益	生産等経費縮減便益	1,554	
	木材利用増進便益	66,387	
	木材生産確保・促進便益	412,060	
森林整備経費縮減等便益	造林作業経費縮減便益	10,039	
	森林整備促進便益	350,147	
総 便 益 (B)		47,209,825	
総 費 用 (C)		14,149,610	
費用便益比	$B \div C = \frac{47,209,825}{14,149,610} = 3.33$		

森林環境保全整備計画 耳川地域 (宮崎県) 概要図



事前評価個表

整理番号	9 5
------	-----

地域（地区）名	ひとつせかわ 一ツ瀬川地域	事業名	森林環境保全整備事業
計画策定主体	宮崎県	対象市町村	西都市ほか6町村
事業実施期間	H23 ～ H27（5年間）	事業実施主体	市町村、森林組合等

事業の概要・目的	一ツ瀬川地域森林計画区の森林面積は83,813haで、このうち民有林が57,201ha(68%)、人工林面積が28,717ha(50%)となっている。また、人工林の7割をスギが占め、齢級別面積は8齢級が最も多く7齢級以上の林分が66%を占めており、スギを主体とした人工林資源は収穫可能な時期を迎えている。 しかしながら、森林資源が充実していく一方で、近年の木材価格の長期低迷や高齢化等による林業労働力の低下から、間伐等の保育管理が不十分な人工林が見受けられるようになり、このまま推移すると、森林の公益的機能の発揮にも支障をきたすことが懸念されることから、長伐期施業による資源循環を促進するため、一ツ瀬川地域森林環境保全整備計画を作成し、これに基づく森林整備を推進する必要がある。 本計画に基づき、未植栽地の解消、森林に応じた伐採や植栽・保育管理を着実に実施することにより、水源かん養機能等、森林の有する多面的機能の発揮が可能となる。 その他、他産業との連携に関しては、本計画の地域は農林業が基幹産業であり、その多くは畜産・特用林産及び林業を取り入れた複合経営であることから、農林業の振興において、関係部局と連携を図っている。
事業内容・事業費	森林整備：4,873ha 人工造林、下刈り、除伐、間伐、森林作業道等 路網整備：2,000m 林業専用道開設 総事業費：1,012,466千円
費用対効果分析結果	B/C = 3.24
評価結果	必要性：保育対象林分の状況、森林整備の緊急性から見て必要性が高い 効率性：投下する費用を上回る効果が見込まれることから、事業の効率性が認められる。 有効性：健全な森林の整備によって、森林の有する公益的機能の確保はもとより、将来の優良材の安定的生産に有効である。 本計画では、森林の有する多面的機能を発揮するために必要な森林整備が適切に計画されている。また、効率性、有効性も認められることから、森林環境保全整備事業計画として実施することが適当である。

便 益 集 計 表
(森林整備事業)

事業名: 森林環境保全整備事業
地域名: 一ツ瀬川

宮崎県
(単位: 千円)

大 区 分	中 区 分	評価額	備 考
水源かん養便益	洪水防止便益	1,884,568	
	流域貯水便益	938,845	
	水質浄化便益	1,602,792	
山地保全便益	土砂流出防止便益	1,736,041	
	土砂崩壊防止便益	4,969	
環境保全便益	炭素固定便益	744,866	
木材生産便益	生産等経費縮減便益	62	
	木材利用増進便益	2,876	
	木材生産確保・促進便益	79,254	
森林整備経費縮減等便益	造林作業経費縮減便益	4,510	
	森林整備促進便益	148,657	
総 便 益 (B)		7,147,440	
総 費 用 (C)		2,203,406	
費用便益比	$B \div C = \frac{7,147,440}{2,203,406} = 3.24$		

森林環境保全整備事業 一ツ瀬川地域 (宮崎県) 概要図

